

平成30年度実績に基づく効果検証の外部評価について

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
1	1-1	重要業績評価指標について一数字だけではわかりにくい。	1-1 「茶エンナーレ」から始まる掛川文化の創造、に対する意見は3つの観点がある。	1 茶エンナーレをシティプロモーションを始めとした観光と連携すること。 (1) 市外住民向けのプロモーション効果が高いイベントなので、シティプロモーションの枠組みに変更できないか。 (2) 産業や経済の視点を持った枠組みの中に位置づけていくことが必要。
2	1-1	鑑賞した、活動をした、芸術文化に触れた数どんな形で文化芸術活動に触れたかや参加したか、その内容が大事だと思う。	・茶エンナーレをシティプロモーションを始めとした観光と連携すること。 ・掛川市が目指す文化芸術(茶文化)とは何か、目指すべき方向性を明確にする。 ・茶文化の発信の仕方の検討	2 掛川市が目指す文化芸術(茶文化)とは何か、目指すべき方向性を明確にする。 (1) 市民が行う文化芸術活動の内容を具体的に示す必要がある。 (2) 文化の創造につながる持続性のある取り組みとしていく。 (3) 学校の美術教員によるワークショップや「茶エンナーレ」への学校単位での参加など、学校教育との連携を強化する。 (4) 高校生などの市民が美術館等の企画に参加する仕組みを作る。
3	1-1	掛川市が目指す芸術文化とは何なのか、一過性のものでなく具体的なイメージを示すべきだと思う。		3 茶文化の発信の仕方の検討 (1) 茶文化を掛川だけのために重点を置いて行うのか、県内、県外にも広めるのかという発信の仕方を考えた方がよい。 (2) 文化芸術関連の催事・イベント情報を一覧性のある形で集約して市民に発信する。 (3) 文化芸術活動サポートセンターの創設など、拠点・組織力を強化する。
4	1-1	市をあげて取り組む構想が見えにくい。		
		子どもの芸術活動支援の課題として、習い事や部活動の事情があるとしているが、市の学校教育の一環として ①美術館のロビーを活用して定期的なワークショップを学芸員がテーマを決め開催する。 ②学校の美術の主任者研修で、先生にも様々なワークショップや企画展示のレクチャーに参加してもらい、先生が美術館でその時に行っている展示に関係するワークショップを授業で行う、またはすべての市内の小中学校の校外学習で、掛川市や地元の作家による展示、美術館の所蔵品を必ず見に行く。児童や生徒だけの班行動に終わるのではなく、必ず先生主導で地元にある美術館や歴史的建造物について校外授業で見学し、掛川市に残る大切な遺産についてしっかりと説明を聞き、学ぶ授業とする。 ③常に身近にアートを感じる、当たり前のように生活の中に芸術があることが、市民の文化意識を高めてゆくとと思う。大都市で開催されるような質の高い芸術作品を上演したり、著名な芸術家を招いて、子どもたちを無料で招待したり、家族で見られるような価格設定にし、満足感と感動を与える機会をつくる。		

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
5	1-1	<p>④地元の伝統産業を継承している職人を学校に招き、技を間近で見てもらい、作品にもふれてもらう。先日行われていた、佐次本木工の職人による組木細工の体験は素晴らしかった。市内のすべての学校でこのような取り組みが行われてほしい。いいものを見て、触れる機会をより多く作ることで、子どもの感性は磨かれ、豊かになる。感性を磨くことは様々な感覚に敏感になることだと、茶エンナーレの総合プロデューサーの鈴木氏もおっしゃっている。今あるものを使い、組み合わせることで、非日常を体験したり感じたりできることがたくさんあると思う。</p> <p>⑤美術館の企画展を地元の高校生にプロデュースしてもらおう。自由な発想で、地元に関わる展示をしてもらう。サポートは市で行う。まるごとレンタル美術館。またロビーで販売するアートグッズを子どもたちに考えてもらい、商品化する。</p> <p>⑥茶エンナーレでテーマを決め、学校単位で取り組む。作品が学校の数だけできる。美術館や歴史的建物の中で展示する。</p> <p>⑦茶エンナーレの会場案内表示を学校ごとに1つ作ってもらおう。市民や子どもがたくさん関わられるようなテーマを与えて、イメージを膨らめて一緒に盛り上げていく気持ちを醸成する。</p> <p>⑧課題の中の文化芸術活動サポートセンター創設について一組織をつくるべき。専門家を招いて、文化芸術のまち掛川構想に沿った活動を企画提案し、長期的にサポートしてゆく拠点をつくるべきだと思う。持続的継続的なサポートが必要だと思う。</p>		
6	1-1	<p>「文化とは何か」についての基本理念が明確になっていない感がある。文化は、時間を掛けて定着する必然性を有していると理解しているので、まだ1回目・2回目と取り組んだ時間が少ないので、一概には言えないがイベント的な一過性のものでなく「文化の創造」に繋がる継続性のある取り組みとなる工夫が少ないように感じられる。</p>		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
7	<p>・重要業績評価指標の目標値が適切であるか。</p> <p>①～③の項目について平成27年度の数値を基準にしていますが、そのときの質問の内容、タイミングなど同一内容(条件)で調査されているかどうか疑問が残ります。明らかに到達不可能な目標数値を設定しています。</p> <p>全般的に言えることですが直近3カ年では平成29年度の数値が高くなっています。「茶エンナーレ」効果によるものと推察します。目標値はこれをベースとして無理のない数値目標を設定すべきと考えます。</p> <p>併せて、アンケート調査では文化芸術の領域(範囲)及び施策を具体的に示すべきと考えます。</p> <p>・プロジェクトの内容や具体的取組が市民ニーズと整合しているか。</p> <p>①掛川市では毎週のようにどこかで「文化芸術」「催事」が行われていますがその情報を平面(催事カレンダー)で知ることができません。点での発信はありますが…。1枚の紙に全ての情報が載っているものが欲しい(イメージ)。</p> <p>市・財団・民間・NPO・私的団体などが開催している「文化芸術」、「催事」の情報を集め、その情報を市民が得やすい環境をつくってほしいと思います。それが「文化芸術サポートセンター」の役割であり、早期開設を望みます。</p> <p>駅中に観光案内ブース(観光協会)はありますが、各施設が発行している冊子、チラシのみで市民としては物足りません。</p> <p>②郷土の歴史や文化に誇りと愛着を持つ市民の割合を増やしていくために、小学校の授業の中で掛川の歴史、偉人を学ぶ時間があるといいと思います。</p>		
8	<p>茶エンナーレの目指す方向性をもう一度はっきりさせるべき。「掛川オリジナルの茶文化を創造し、発信する」ことが主目的ならば、掛川ならではの茶文化とは何かを追求する必要がある。あるいは、もっと芸術性の高いアートプロジェクトとして広く認知させるのであれば、内容を早めに固めなくてはならない。市民の文化芸術活動の底上げ、観光客誘致など漠然とした方向性ではなく、どこかに力点を置き、ある部分に特化した取り組みに期待する。そうすることが結果的に文化・技術に対する意識の高揚や誘客につながると思う。</p>		
9	<p>将棋によるまちづくりはいい試みだと思う。「将棋のまち・掛川」を是非広めてほしい。</p>		
10	<p>創造事業は、中高齢者も若者も1人ひとりが自ら考え取り組む、自主自律的な環境作りが必要です。あまり他者が世話を焼かないことです。</p>		

プロジェクト番号		第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
11	1-1-1	掛川市にこのようなアートイベントが開催できる土壌があり実現できたことは大変素晴らしいと思うし、実際に全ての展示会場をまわり掛川の魅力の新たな発見もあって本当に楽しかった。なので、昨年の課題山積のように書いてある評価を見て、転入者の立場でもある自分の感想との温度差に驚いた。茶エンナーレはむしろ「1-3市民総ぐるみのおもてなし～」 「1-4シティプロモーション」が主目的の事業ではないか。枠組み変更を検討できないか。		
12	1-1-2	重要業績評価指数の「③郷土の歴史や文化に誇りと愛着を持つ市民の割合」について、自分はまず掛川祭りを連想したが、具体的な施策に祭りのことは入っていないので評価指数とかみ合っていないように思う。掛川祭を知り深めるような機会、また市外の方や転入者にわかりやすく伝えるHPの記載方法、さらには市内全域で点在する、「掛川祭」と同日だけど掛川祭ではない(?)お祭りの情報など、内外に向けてより効果的な情報発信を検討する必要があるのではないか。		
13	1-1-2	今後の取組で、文化財資源等をオープンデータとして活用する方向性が示されている。		
14	1-1-2	公立美術館においても、収蔵作品の写真やデータの使用について、規制から活用に転換する動きがあるので、掛川市で実現した折には、先駆的な試みとして、是非広く報じてほしい。		
15	1-1-2	産業経済部（シティプロモーション課、観光交流課など）につなげていくことが大切だと思う。		
16	1-1-4	文化芸術活動サポートセンターの創設の課題として、「アーツカウンシル機能を持った文化活動支援組織を確立する」ことが挙げられている。アーツカウンシルのあり方は様々なので、最初は「茶エンナーレ」で萌した芽を育てる方向で進めるのが得策だと考える。		
17	1-1-4	行政にアーツカウンシルを組織するのではなく、もう一歩下がって、支える団体を支えるのが行政の役目である。		
18	1-1-4	事業形態は、柔軟に考えたい。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
19	1-1 茶エンナーレは外からどう見えるのか。外から来た方に楽しんでもらうという視点がとても重要である。地域おこしのイベントが力強く育っていくためには、シティープロモーションや観光交流課などの産業や経済の視点を持った枠組みの中に位置づけて行くことが大切である。(ワーキンググループ会議意見)		
20	1-1 茶文化を掛川だけのために重点を置いて行うのか、県内、県外にも広めるのかという発信の仕方を考えた方が、より掛川の活性化につながり、良いものになっていくと思う。(ワーキンググループ会議意見)		
21	1-2 街なかの賑わいが衰退していることは、顕著であり、土日であってもまちなかに日中人通りは、殆どない。営業している店が少ない。買い物したい店がない。駐車場がない。魅力的な商店街ではないは、以前から言われている。高齢化に伴い、イベントに参加できる商店街も年々減っている。思いきった政策が必要だと思う。空き店舗をシェアオフィスにすることはすでに行っている。古さを生かして、作家に安く提供し作品発表の場や店舗にする。商店街を生かしたほかにはない話題性をつくり人を呼ぶ。歴史あるまち掛川を駅に降りた瞬間に感じてもらうために、駅前から統一されたイメージを演出する。歴まち通りと題して、通りの両側にお土産や食事ができる店舗をつくる。観光客が駅から掛川城へ来る間にウキウキするような街づくり。連雀や西町の東西の商店街通りには、作家によるアーティストとおとりし、空き店舗を斬新で個性的な店にする。既存の店舗にもアーティストの演出を加え統一感のある店をつくる。また掛川城近くに歴史的建物を意識したコンビニや大型コーヒーショップ(チェーン店)などを建設し、地元の人たちも利用し観光客にも便利な店舗とする。観光日本一と歴史あるまち掛川をさらにPRするためには、駅からの統一化された街のイメージ作りやワクワクする通りでないとは集まらないと思う。1-3にも繋がる。	1-2 中心市街地活性化と多極ネットワーク型コンパクトシティ、に対する意見は3つの観点がある。 ・中心市街地のありかたについての検討 ・観光施設を活用した情報発信の仕方の検討 ・地域の実情に応じた交通手段や地域公共交通網の整備など、継続的な推進	1 中心市街地の在り方についての検討 (1) リノベーションしたシェアオフィスに大都市圏の人を呼び込むことによる空き店舗や空き家の活用促進の検討が必要。 (2) 中心市街地を居住に重点を置くのか、交流人口増加に重点を置くのか改めて検討が必要。 (3) 「ウィタス138」における、子育て世代や若年層の来店を促す取り組みを強化すべき。 (4) 「中心市街地の居住人口」のKPIは、プロジェクトの目的や施策の内容からみて、再検討が必要。 ・「まちなか交流人口」のKPIはR1・R7の目標値を実績値以上に上方修正すべき。 2 観光施設を活用した情報発信の仕方の検討 (1) 来客の多い花鳥園の周辺に道の駅のような地場産品等を扱う情報発信施設の検討をすべき。 例：掛川城を中核とした観光客を呼び込む、歴まち通りやアーティスト通りの整備 3 地域の実情に応じた交通手段や地域公共交通網の整備など、継続的な推進 (1) 運転免許証返納時に、以後の生活に不安を持っている高齢者に対する、「ふくしあ」と連携したサポート体制の構築が必要。 (2) デマンド型乗合タクシーの利用促進に向けて運行改善が必要。 (3) 「公共交通に不便を感じない市民の割合」のKPIは、プロジェクトの目的や施策の内容からみて、再検討が必要。
22	1-2 ウィタス138の事業運営が芳しくないという声がある。集客対象を高齢者や交通弱者に狭めることなく、子育て世代が来店し易い仕組み(遊び場、雰囲気、品揃え、レイアウト等)があっても良いのではないかと。くわえて、若年層も視野に入れた事業運営や、利用者が行ってみたくなる、仕組み作りと工夫が必要。		

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
23	1-2	夜に中心市街地がにぎやかなのはいいこと。掛川の一つの特徴になりつつある。昼間のにぎやかさを創り出すには週末はイベントを組み込み、「週末の掛川は面白い。何かやっている」と話題に上るようになればいい。まずは商店主や商店街として何ができるか検討すべき。		
24	1-2	<p>現在の重要業績評価指標が重点プロジェクトの効果を図る上で適切な指標であるか</p> <p>中心市街地の活性化のためにはいかに魅力ある街づくりを促進し、そのことによって交流人口が増加すればよいことであって②の中心市街地の居住人口まで目標にする必要があるかどうか疑問です。加えて、⑤も車文化の掛川にあってその数字が高い、低いによって評価されてよいものかとも思います。また、1-1でも申し上げましたがアンケートの取り方によって大きく変わるものです。実績と目標の乖離が気になります。これを目標にするのであれば修正計画が必要であると思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要業績評価指標の目標値が適切であるか。 <p>日本への外国観光客が約2800万人(年間)、平均的に増えている状況にあって、③まちなか交流人口のR1、R7目標値がH30の実績より低い目標値に設定されていることが気になります。上方修正すべきと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの内容や具体的取組が市民ニーズと整合しているか。 <p>1-1、1-3、1-4の取組みにも関わりのある内容です。</p>		
25	1-2-1	課題として「物販店の衰退が激しい」とあるとおり、物販で集客するのは無理があると感じる。今後の取組として「オフィス系」が挙げられている点に納得できる。		
26	1-2-1	中心市街地は、掛川城という全国的に知られた資源へのアプローチ的位置づけもあるのだから、むしろ観光客を外から呼び込むゾーンとして一層色濃く打ち出すべきではないか。		
27	1-2-1	姫路城に至る大通りは、観光客にとっては気持ちを高揚させる効果があるし、日常的に市民にも広く利用されている。小路には、個性的なパン屋やカフェなどが点在し、市民も外来者も利用している。		
28	1-2-1	1-3と連動させた仕掛けができないか。		
29	1-2-1	ラグビーワールドカップとオリンピック・パラリンピックに関しては、「全市的な」構えで取り組まれることが肝要だが、その後の外国人誘客については、絞込みが必要になるだろう。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記	
30	1-2-1	核となる大イベントが終了した後も、外国人観光客の訪問先として考えてもらうためには、「掛川のここが一番の自慢、ここを見てください」という集中特化した方法に切り替えないと、旅行商品としての求心力は薄まってしまふ。		
31	1-2-2	公共交通に不便を感じない市民の割合評価は依然としてDではあるが、中地区生活支援車など、地域の実情に応じた交通手段の新たな取組が始まっている。継続して推進をお願いしたい。		
32	1-2-2	市外からの移住者においては、特に地域公共交通網が整備されていないことが原因で、住みにくい、不便なまちと感じる方が多い。住みやすいまちとするために、バスや鉄道の乗継を高め、誰もが利用しやすい地域公共交通網の整備をお願いしたい。		
33	1-2-2	運転免許証を返納した高齢者の生活を支える体制が急務となっている。返納者は増加傾向にあるが、そのことにより、外出機会が減り、生きがいつくりを含む生活全般に不便を生じている。例えば警察署の協力を得て、免許証自主返納時に、生活への不安を抱える方には各ふくしあ窓口で情報が届き、今後の生活への情報提供やサポートをしてもらえるような体制など、免許を返納しても安心して生活ができるような取組を検討していただきたい。		
34	1-2-2(3)	デマンド型乗合タクシーの実績状況が見えてこない。本当に市民のニーズに合っているのか検証し、利用促進に向けて運行改善などの検討をお願いしたい。		
35	1-2	お城までの通りを観光客を呼び込む通りとして特化してしまってもいいのではないか。中心市街地を移住するところとするのか、交流人口増加のための地域とするのか論点となってよいと思う。 (ワーキンググループ会議意見)		
36	1-2	花鳥園の周辺に道の駅を作ったりして人の動きを広げて行くことはどうか。 (ワーキンググループ会議意見)		
37	1-2	連雀通りの空き店舗を伊勢神宮のおかげ横丁のように集約して、再開発や、お城を中心としたストーリーを描くことが出来ないか。 (ワーキンググループ会議意見)		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
38	1-2 中心市街地でリノベーションをやったら、非常に効果があると言うところをもっとPRすると、外から人をオフィスに呼べるかもしれないので、強化してはどうか。 (ワーキンググループ会議意見)		
39	1-2 中心市街地の活性化は若い人が行きたくなるようなものがないと人は集まらないと思うので、検討をお願いします。 (ワーキンググループ会議意見)		
40	1-3 外国人観光客誘致のために、サイン表示の多言語化が急務。また観光協会、観光シティプロモーション、各事業所、近隣市町、県など様々が一体となり取り組むことが必要だと思う。外国人観光客の望む観光についてリサーチし、ともに情報を共有し、観光の仕方や種類、個人か団体かなどによって、魅力的な観光をプロデュースする組織が必要。それぞれがバラバラに取り組むのではなく、同じ方向ですすめてゆけるような組織作りが必要だと思う。今後は個人の発信力を多に活用し、インスタグラマーやブロガーを様々な国から招いて、魅力を発信してもらうことがますます効果的と考えるが、情報の共有がなかなか進んでいないため、もてなしのメニューや商品化につながるプラン作りなどが、関係機関と協力して打ち出されていない。もっと前段階から考え、実際体験後の外国人の評価をきき次に活かすなど、建設的な取り組みにし発展させていかないといけないと思う。また城では忍者ガイドを行っているが、もっと強くアピールするためには構想プランが必須である。ボランティアに留まらないオフィシャルなものとしてしっかりPRし観光商品にするための構想をまず打ち出すべきだと思う。	1-3 市民総ぐるみのおもてなし観光客誘客促進事業、に対する意見は2つの観点がある。 ・情報発信方法の検討 ・観光客の受け入れ態勢・仕組みづくり	1 情報発信の方法の検討 (1) 市民が市外・国外の人と交流したり、掛川の物産品を送ったりする機会に、掛川市を紹介する広報パンフレット等をいっしょに送ってもらい市民から掛川市を発信してもらう。 (2) SNSでの発信回数などのKPIを追加する。 2 観光客の受け入れ態勢・仕組みづくり (1) ソフト面、ハード面ともに充実させる必要がある。 (2) 旅行会社との関係作りが大切。 (3) 観光客の受け入れ体制として農林漁家民宿を活用することが必要。 (4) サインの多言語化など、外国人観光客への対応の充実が必要。 (5) 海外の観光客とのコミュニケーションツールの導入が必要。 (6) 外国人観光客に対する「掛川茶の体験」プラン提供を検討をすべき。 (7) 「観光交流客数」のKPIでR1の目標値を、実績値以上に上方修正すべき。
41	1-3 おもてなしの言葉が、正しく広く理解させているのか。おもてなしをさせて頂く側の受け入れ体制というか取り組みの仕組みづくりがソフト面・ハード面ともに必要ではないか。 例えば、茶草場農法が世界農業遺産に認定されたが、国内外からのお客様を受け入れる体制が出来ているとは思えない。 例で言えば、中国のお茶の産地では、お茶の販売も含め観光客の受け入れ体制ができています。		
42	1-3 施設やイベントにストーリー性を持たせることで、観光客は掛川により親しみを感じると思う。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
43	1-3 誘客には「食」の魅力が不可欠。わざわざ食べに来てくれるような郷土食の開発に期待する。		
44	1-3 修学旅行生が掛川茶や市の広報パンフレットを配布しながら旅行先で他県や外国の方と触れ合う機会があります。商工会議所や農協のご厚意でプレゼントの品を用意しましたが、このような活動が市民全体に広がるための支援を計画していただけると、「市民総ぐるみ」での掛川のPR発信ができるのではないのでしょうか。掛川の物産を県外(海外)の知人に送るときに掛川の観光や移住などに関わるパンフレットを、市内宅配業者や商店などの企業に協力いただき希望される市民には同封していただく。市民によるSNSでの掛川紹介のための講習会(掛川市内巡り等)等、市民のだれもが掛川のよさを伝えられる機会をふやしていくと「市民総ぐるみ」を浸透させる一助になるのではないのでしょうか。		
45	1-3 ・現在の重要業績評価指標が重点プロジェクトの効果を図る上で適切な指標であるか。 SNSでの発信回数、フェイスブック・インスタグラムのフォロワー数も指標にしてはどうかと思います。(数万、数十万のフォロワー数を獲得するための内容構築を検討) ・要業績評価指標の目標値が適切であるか。 直近3カ年でR1の目標がH29よりも低い目標値設定が気になります。H30の実績によっては修正が必要かもしれません。 ・プロジェクトの内容や具体的取組が市民ニーズと整合しているか。 誘客イベントの強化、観光パンフレットのグローバル化、SNS発信、静岡空港からのアクセスなどいずれも重要な施策、これをさらに強化していくことです。		
46	1-3-1 Wi-fi、キャッシュレスはもちろんだが、掛川で用意すべきは「掛川茶の体験」に尽きると思う。ラグビーワールドカップという絶好の機会を逃さずに、東京-大阪間の移動の合間に掛川に立ち寄って日本的な体験をしてもらうプランが売り出せれば、その後の販路につながると思う。		
47	1-3-2 平成29,30年度に、日本版DMO調査研究を続けている。一方、今後の取組の方向性には、広域観光というよりは単独で旅行会社と関係性を作っていくことの効用に触れている。		
48	1-3-2 掛川市ほどの規模になれば、単独で行動を起こし、地域をリードしていくやり方も一法だと感じる。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
49	1-3-2 特に周辺地域が必ずしも観光に力を傾注するわけではない状況下、新幹線駅のある有利性や文化資源と掛川茶を組み合わせてリードしていける掛川市が、まず単独で成功していくことが大切だと思える。		
50	1-3-3 海外からの観光客数は4000万人の時代の中で、掛川市の戦略のキーワード、地域資源だと思います。今後の取り組みの中で、観光資源の掘り起こしとありますが、交流型観光を推進するためには、その受入れ施設を市内に増やす戦略が必要です。この戦略を推進するには、市民力を生かした静岡県農林漁家民宿であると思います。今後の取り組みの方向性に、この点を入れることが必要ではないでしょうか。		
51	1-3 修学旅行生に行く際、掛川茶や市の広報パンフレットを海外等で配布しながら触れ合うということを行っているが、市民全体に広げれば、市民総ぐるみになるのではないかと。(ワーキンググループ会議意見)		
52	1-3 観光客が来てくれることで消費拡大につながる必要があるため、そういった人を迎えるための仕組みを考える必要がある。(ワーキンググループ会議意見)		
53	1-3 世界農業遺産は他との差別化がされているので、もっとうまく活用する必要があると思う。(ワーキンググループ会議意見)		
54	1-3 海外の観光客の移動手段として、タクシーを使うが、運転手がコミュニケーションを取れるツールの整備をした方がいいのではないかと。(ワーキンググループ会議意見)		

プロジェクト番号		第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
55	1-4	<p>シティプロモーションは、いかにして多くの人に掛川の魅力を知らせて頂き、お越し頂いて出来れば定住していただくための、PR戦略だと理解しています。そうであるならば、市民自らも掛川の魅力を感じ理解しているのであれば、そのことのPRも必要ではないか。</p> <p>住みたいまちの高ランクに評価されていることもPRの必要あり。</p>	<p>1-4 掛川の魅力を売り込め掛川流協働力によるシティプロモーション、に対する意見は2つの観点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーション、移住定住事業の検証が必要。 ・情報発信方法の検討 	<p>1 シティプロモーション、移住定住事業の検証</p> <p>(1) どの施策が効果があり、なかったのか。長期的な定住につながっているかなどを十分分析しながら、施策をブラッシュアップし、精度を高めていくことが必要。</p> <p>(2) 継続的なノウハウの蓄積ができる体制づくりが必要。</p> <p>(3) 数値目標の上方修正の検討が必要</p>
56	1-4	<p>移住・定住相談件数が大きく増えているのは、成果だと思う。</p>		<p>2 情報発信方法の検討</p> <p>(1) シティプロモーションや移住定住は、PRする人の的を絞ることが重要。</p> <p>(2) シティプロモーション動画の認知度向上への取り組みが必要。</p>
57	1-4	<p>観光シティプロモーション課が移住・定住の促進まで担当課として担うのは無理がある。観光に重点を置くならば現状でいいが、移住・定住が主であるならば、観光は切り離した方がいい。</p>		<p>(3) 市民が感じている掛川市の魅力や、住みたいまちランキングの高い評価などをPRする。</p>
58	1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の重要業績評価指標が重点プロジェクトの効果を図る上で適切な指標であるか。 <p>1-1～1-4の命題「掛川への新しいひとの動きをつくる」を実現するためにはシティプロモーションの役割が重要です。</p> <p>1-1の市民アンケートによる重要業績評価指標の目標値もシティプロモーションに課せられた指標であると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要業績評価指標の目標値が適切であるか。 <p>前述(1)のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの内容や具体的取組が市民ニーズと整合しているか。 <p>シティプロモーション動画を拝見しました。よくできていると思いますが市民も含めてまだまだ認知されていないように思います。海外も意識したミレニアル世代後半をターゲットにイメージよりも掛川の魅力を直接伝える動画が欲しいと思いました。</p>		

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
59	1-4	目標数値の上方修正を考えてはどうか。		
60	1-4	課題の欄の書きぶりは、項目を羅列してあるだけである。それらがどういう状況で具体的に何が問題だと認識されているのかを明らかにしていただきたい。	市回答 1-4-1 観光・CP課 ・掛川市のブランドメッセージ「あなたの夢、描いたつづきは掛川で。」とそのロゴマークを作成したが、まちのブランドイメージの確立には至っていない。 ・掛川市が暮らしやすいまちであるということが、市民や市外の方に伝わっていない。 ・市民が主体的となったシティプロモーション活動や新たな賑わいづくりが、まだまだ不足している。 ・市内外の若者や子育て世代に、掛川市の魅力が伝わっていない。 ・シティプロモーションの推進状況を評価検証する仕組みや指標が確立されていない。 1-4-2 観光・CP課 ・移住に関する様々な相談に対し、それを受け入れる体制や横の連携が確立されていない。 ・移住を検討している方たちの把握や、何を目的に移住を検討しているかの把握が難しく、具体的な施策に結びついていない。 1-4-3 都市政策課 ・具体的な施策の内容で述べた中で老朽化空き家の除却は、関係機関との連携により仕組み作りが進んでいる。今後は、この仕組みの中で実績を上げていくことができると考えている。 ・移住希望者に情報発信をし、空き家の活用を促すために空き家バンクの設置を課題として上げさせていただいた。	

プロジェクト番号		第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
61	1-4	課題の欄の多くの記述が、前年度と同じ文章であり、現状がわからない。	市回答 1-4-1 観光・CP課 ・H29年度から、市としてのシティプロモーションの推進がスタートし、この2年でブランドメッセージやロゴマークを作成したところであるため、課題としては大きな変化はない。 1-4-2 観光・CP課 ・移住・定住施策も同様で、短期間で結果が出るものではないため、課題としては大きな変化はない。 1-4-3 都市政策課 空き家問題については、解体及び利活用について、関係団体と連携で取り組んでいるところである。 解体については、仕組みが作られたと認識している。今後は、活用についての仕組み作りが必要と考え空き家バンクの立ち上げとした。なお、空き家バンクについては、民間不動産会社を取り扱う流通空き家との棲み分けや所有者の同意を取るところに苦慮している。	
62	1-4	シティプロモーションや移住定住の促進策のどんな施策が効果があったのか、なかったのか。短期的には効果があるが、長期的な定住につながっているのかなどを十分分析・検証しながら政策をブラッシュアップして、精度を高めていき、継続的なノウハウをためて行く体制づくりが必要である。 (ワーキンググループ会議意見)	上記55～58に同じ	
63	1-4	シティプロモーションをやる目的は掛川に来てもらい移住、定住してもらうことがポイント。単なる観光案内やPRだけでなく、方向性を持った仕組みが必要。 (ワーキンググループ会議意見)		
64	1-4	どういう人を呼ぶか、的を絞ってシティプロモーションや移住定住を進めて行くことが重要。 (ワーキンググループ会議意見)		

プロジェクト番号		第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
65	2-1	<p>中東遠タスクフォースセンターについて</p> <p>①目標数値に届いていない理由として、営業不足を挙げているが今後の急激な改善は人手不足の問題もあり、難しいのではないか。企業との接点を増やす為の制度作りが必要ではないか。</p> <p>②上記一例として、日本政策公庫や静岡信用保証協会と連携して、同センターを利用している企業向けの制度融資を新設するなど必然的な関わりを生み出していくことが必要ではないか。</p>	<p>2-1 みんなが働ける掛川創造事業、に対する意見は2つの観点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスクフォースセンターの在り方について ・障がい者就労支援について ・外国人労働者へ態勢整備について 	<p>1 タスクフォースセンターの在り方について (1) どこに向かって行っている事業で、どこをターゲットに目指しているのかを明らかにした方が良い。</p> <p>2 障がい者就労支援について (1) 1年未満で辞めてしまう人を実績としてどう評価するか検討が必要。 (2) どういう理由で長期雇用できなかったのか分析が必要。</p> <p>3 外国人労働者へ態勢整備について (1) 外国人労働者数が増えているので、どのようにフォローしていくのか、受け入れ態勢の検討が必要。</p>
66	2-1	<p>重要業績評価指標は、評価区分では芳しくないが、それぞれ数値は伸びている。目標数値が高すぎることはないか。</p>		
67	2-1	<p>主に、働く意欲のある高齢者、障がい者への言及であり、女性の就労支援が弱い印象。</p>		
68	2-1	<p>「女性の働きやすい環境づくり」のための事業や指標を設定していないので、進捗が読み取れない。</p>	<p>市回答 静岡労働局との雇用対策協定において、子育てと仕事の両立環境整備として、社会保険労務士の支援回数と子育てに優しい事業所の認定数、及び男女共同参画宣言事業所数を指標として設定している。(詳細は添付の「平成30年度雇用対策協定運営協議会資料」とおり。)</p>	
69	2-1-1	<p>タスクフォースセンターが提供できるスキルのレベルは、企業の課題解決のための実務支援を行うに足るものなのか。</p> <p>経営アドバイス関連の事業者は多いし、専門分野であれば土業の方々がいるので、タスクフォースセンターを必要とする顧客をどこに見出すのかを、再確認したい。</p>	<p>市回答 タスクフォースセンターは専門的な知識・技術等を持ったシニア人材等を活用し、地域の企業等の経営課題を解決することにより、人材の能力活用及び雇用促進、地域経済の活性化、地域産業力の向上に寄与することを目的としている。</p> <p>昨年度76名の登録人材の内実働50名と報告を受けており、一定のレベルにあると考えている。</p> <p>営業や金融機関等支援機関からの紹介を通じて顧客を開拓していく。</p>	

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
70	2-1-1 KPI「③改善効果額」が目標を大きく上回っていることから、中東遠タスクフォースセンターを開設した成果は高く評価できます。今後は、利用企業の経営相談内容や登録人材のスキル等を精査するとともに、商工会議所（中小企業相談所）・商工会との連携（企業への同行訪問や経営課題への連携対応など）を強化して経営改善ニーズを的確に把握したり、登録人材の質的充実（特にコンサルティング能力）を図ったりすることが重要だと思われます。	上記65～67に同じ	
71	2-1-2 KPI「障がい者の就労者数」が目標を大きく上回り、高い業績を上げていると判断できます。一方で、1年以上の定着率は約30%ということなので、1年以内に離職した約7割の方の状況（離職理由など）を確認する必要があると思われます。次のステップとして、就労だけではなく、安定雇用や所得向上などを意識した取り組みになるとよいと思います。		
72	2-1-2 就労人数の目標は達成しているが、就労定着率が低く本来のプロジェクト達成度が判断できない。就労率、定着率ともに健常者水準と比べてどうなのかを示し、目標値を設定していく方がより分かり易いのではないかと。		
73	2-1-2 昨今の業種を問わず全体的に人手不足が経営課題である。企業と連携し外国人の就労資格「特定技能」の研究・検討を加速させていくことが必要。		
74	2-1-2 企業側の外国人受入体制支援として、技能実習生の住居場所や通勤方法を行政が整備していくことを検討してはどうか。		
75	2-1-3 障がい者医療の継続検討、作品展と販売店の増加を支援されることもぜひ、お願いしたいことだが、暮らしの場でのサポートも意識していただきたい。「してあげる、守ってあげる」ではなく、「すること」への支援が大事だと思う。障がい者が力をつけ、発揮する支援、社会参加を妨げる要因を取り除き、誰もが使える・参加できる支援をご本人から地域で学ぶ。地域でふれあい、支えあう仕組みの研究および実践への取組が必要である。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
76	2-1-3 障がい者の活動団体（身体障害者協会、掛川市視覚障害者協会、車椅子友の会等）の組織が弱まっているのが心配である。社会参加を目的とした自主的な福祉活動や各種事業等を実施しており、市が行う事業においても、障害者団体や支援団体の参加、協力が重要な役割を果たしている。本人たちの活動であっても、自主的な運営を支援するなど、障害者団体の育成と活性化を図ることも必要であり、本人たちの声に耳を傾けての取組と支援の関係性が大切であると感じている。		
77	2-1-4 KPI「雇用対策協定の推進」の「12指標」について、その内容と個別の達成率を確認させていただければと思います。	市回答 添付の「平成30年度 雇用対策協定運営協議会資料」のとおり。	
78	2-1 タスクフォースセンターはどこに向かって行っている事業で、どこをターゲットに目指しているのかを明らかにした方が良いのではないかと。 (ワーキンググループ会議意見)	上記65～67に同じ	
79	2-1 タスクフォースセンターは商工会議所と金融機関と同じ支援にしていけないと難しいと思います。 (ワーキンググループ会議意見)		
80	2-2 新しい仕事を生み出すことは困難であるが、その中で自分のものにするには、自信へとつながり、市においても活性化の要因となる。 時代に応じた情報を公開して欲しい。	2-2しごとを生み出すイノベーション支援、に対する意見は2つの観点がある。 ・新規創業者に対する支援について ・6次産業化の推進について	1 新規創業者に対する支援について (1) 創業支援を市で取り組んでいくということは非常に素晴らしい。 (2) 創業後も軌道に乗るまで市としてフォローすることについて検討が必要。 (3) 外部機関と連携して創業や新しい分野を作っていく仕組みが必要。
81	2-2 地場産品を活用した品を作り出す支援には農業者も喜んでいる。長く愛される品であってほしい。		
82	2-2-1 KPI「特定創業支援事業認定創業件数」が低調です。対策として、例えば、中心市街地における空き店舗活用やリノベーションを伴う創業に的を絞る、商工会議所等と一体となって支援するスキームを作ってはいかがでしょうか。市としては、創業しようとする人に、周辺市場調査に有効なマーケットデータを整理して、オープンデータとして登録して公表・活用してもらおうなどの支援が考えられます。		2 6次産業化の推進について (1) 地場産品を活用したベンチャー企業の発掘に予算をつけて、人を割り振らないと盛り上がっていかないのではないか。 (2) 物と物、企業と企業をマッチングするための戦略的な検討の場を作る必要がある。 (3) 地域や事業主にマッチングの事例をオープンにする必要がある。

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
83	2-2-1	行政単独での創業支援は難しい。開業場所、資金調達手段、販路拡大などを官民で支援していく体制構築を検討すべき。		
84	2-2-1	創業先の成長支援に重点を置き、創業5年目迄を支援対象としてはどうか。		
85	2-2-1	重要業績評価指標の達成状況と要因の記載に関連して、他機関（商工団体）の実績は、平成29年度は15件、30年度は25件と伸びている。これらと、役割や機能に差がないのならば、行政は、商工団体の取組を積極的にPRする立場に回るのも一法である。		
86	2-2-2	H30計画の欄にある「地場産品を活用する農業者を支援」は、事業費0円で人工は0.1人である。予算も人もかけずに支援するとは、どのような内容なのか。	市回答 農業者が6次産業化を検討する際、国や県、中小企業等の支援策の情報提供を行うとともに、市の予算計上を必要としない直接採択事業を実施する際には、補助申請及び事業実施支援（会計検査等にも耐えられる）を行っている。また、国や県と農業者のパイプ役となって事業調整を行うことや、事業実施後の商品のマスコミへのPRなどを実施。茶やオリーブについては、市内外の企業に対し、連携等を提案・調整するとともに、必要に応じ農家とマッチング、試作品の製造など行っている。	
87	2-3	新しい雇用を生み出す為に重要であるが、外から入ってくる社が少ない。企業誘致のための造成工事も進められ完了している地区もある。企業訪問の成果が多く出ることを望む。	2-3 掛川市の新たな開拓 内陸フロンティアと企業誘致、に対する意見は2つの観点がある。	1 市内企業の移転について (1) 市内の中小企業が他市に出ていけないための取り組みが必要。 (2) 住宅地から工業集積地に移転する際の補助金の周知と見直しが必要。
88	2-3-1	行政の努力により企業誘致実績が現れているが、上西郷工業用地への進出企業が2年連続進んでいないなど苦戦が強い状態が現状。	・市内企業の移転について ・企業誘致の推進について	2 企業融資の推進について (1) 企業誘致については金融機関との連携・情報交換が必要。
89	2-3-1	新規工業地帯は外部からの企業誘致に拘らず、市内企業の老朽化した工場移転との両輪で進めて行くのが得策。市内企業の移転後、跡地への商業施設建設により人が集まる仕組みを作っていくことを検討してほしい。		
90	2-3-1	高水準の企業誘致の成功が、地域の雇用創出、ひいては人口増加につながっていると思われ、高く評価できます。		

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
91	2-3-1	<p>企業誘致件数が目標を大きく超えています。しかし、一方では1-4-4UIJターン・地元定住に係る支援(12ページ)では学生が希望する職種と企業が希望する職種がマッチしていないという課題があげられています。誘致した企業の稼働率がわかりませんが、若者が希望する企業誘致ができていのでしょうか。企業を誘致したことによるUIJターンへの効果は具体的に何人くらいなのでしょう。掛川出身者の新卒採用状況と共に知りたいです。誘致件数が多いだけに質も気になります。</p>	<p>市回答 誘致件数11件のうち、操業中の事業所は7件です。7件の企業については、全て近隣市(県内)に事業所があり、用地取得の目的は移転もしくは事業拡張です。雇用効果は、新たに市内に118人(うち掛川市民の新規雇用45人)の雇用が創出されました。 残念ながら、UIJターン及び掛川市出身者についての統計数値はありません。 なお、市内製造業の多くは、現場技術者として長く就労できる高卒者を新規雇用のターゲットとしています。労働力不足から今後、中途採用者の確保に取り組む話も伺うこともありますので、UIJターン就職につながることも考えられます。</p>	
92	2-3-1	<p>重要業績評価指標の達成状況と要因にあるように、事業所の県外移転が危惧される中、もともと市内にあった事業所を留め置く形を含めるとはいえ、3件の実績があることは評価できる。これらの企業は、どのくらいの経営規模か。</p>	<p>市回答 (市内移転A社) 本社：掛川市、設立：S62年 資本金：3千万円、従業員：約50人、業種：製造業 (市内移転B社) 本社：東京都、設立：S25年 資本金：1億円、従業員：約1700人(全体)、業種：総合物流業 (市外から進出C社) 本社：近隣市、設立：S49年 資本金：300万円、従業員：約150人、業種：製造業</p>	
93	2-3-2	<p>プロジェクトの本数が6本と多く、各事業規模も大きいことから、ある程度の進捗率のブレは許容できる範囲であると思います。</p>	<p>2-3掛川市の新たな開拓 内陸フロンティアと企業誘致、に対する意見は2つの観点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内企業の移転について ・企業誘致の推進について 	
94	2-3-2	<p>今後、米中貿易摩擦等の世界経済の変調により、特に製造業の設備投資が低迷することも予想されるため、引き続き地道な情報収集・誘致活動が求められると考えます。</p>		
95	2-3-2	<p>市内企業への訪問の際は、市外移転防止だけではなく、中東遠タスクフォースの活用、障がい者の雇用、ワークライフバランスやテレワークの啓発、子育てに優しい事業所認定制度の活用なども同時に情報収集・意見交換するなど、複数の施策について部署を超えて効率的に取り組めるとよいと思います。</p>		

プロジェクト番号		第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
96	2-4	企業誘致については金融機関との連携が必要と思うので、情報提供と交流をしていただければと思います。 (ワーキンググループ会議意見)	2-4 明日を拓く農 農業ビジネスの推進、に対する意見は2つの観点がある。 ・お茶の消費拡大について ・農業ビジネスの推進について	1 お茶の消費拡大について (1) 地元のお茶、抹茶を使ってもらえるよう、食品の製造工場などとマッチングさせる必要がある。
97	2-4	掛川茶の海外販路開拓、流通経路の拡大、世界農業遺産の活用など、どの個別施策も着実に実行されていると思います。KPI「農業所得800万円以上の認定農業者数」などは低評価となっていますが、オリーブの生産やブランド化、新規販路確立など、施策の成果が表れるまでに時間がかかる取り組みもあるため、長期的なスパンで評価していく必要があると思います。		2 農業ビジネスの推進について (1) 農業の跡継ぎがない方たちへの支援について、6次産業を含めて相続事業承継を行い、掛川市の事業者数を減らさない取り組みの検証が必要。 (2) 農業者の支援では、販売ルートの確保が重要。首都圏向けの農産物のセットや農産物のコラボ、農家と農家のマッチングなど新しい農業ビジネスに取り組む必要がある。
98	2-4	農業者の所得向上の為に動いていると思いますが、なかなか成果が見えないのが残念である。		
99	2-4	農業者も高齢化してきている現在、市内の農業を守る為に何をすべきか？互産に頼るばかりではならない。(主として茶)		
100	2-4	粟ヶ岳山頂休憩所に1億以上の事業費がかかった訳であるが、PRと共にお金を生み出す場となってほしい。		
101	2-4	オリーブの産地化推進について、打ち上げ花火とならぬよう、何らかの形で助成の継続を希望したい。		
102	2-4	重要業績評価指数は荒茶取引平均単価などの取組成果を反映しづらい項目とせず、海外輸出高など具体的取組内容の成果を反映する項目としてはどうか。		
103	2-4-1	茶生産者の海外直接輸出は経験も乏しく難しい。行政にて取り纏めのうえ輸出を行うなど仕組み作りが必要ではないか。		
104	2-4-1	茶葉の裾野は広く、抹茶などの商材利用先を海外へ求めていく動きが必要。流行にとらわれない安定したルートを官民連携して検討していくことが重要。		
105	2-4	お茶を組織的にどうやっていくのか、チームを立ち上げるなどの取り組みが足りないのではないか。 (ワーキンググループ会議意見)		
106	2-4	農業の後を継ぐ方がいない方たちへの支援について、6次産業を含めての相続事業承継を行い、掛川市の事業者数を減らさない取り組みをしてはどうか。 (ワーキンググループ会議意見)		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
107	<p>(放課後子ども教室) 城東学園は3地区の小学校区で、レクリエーション主体や土方小のように勉強主体とそれぞれのプログラムで行っています。</p> <p>活動は、学校内ですが、3地区ともコーディネーターと地域ボランティア主体で動き、子ども達も自主的に参加をして、参加人数も毎回多いです。</p> <p>ただ、活動するにあたり、気になっているのは子どもにかける保険です。</p> <p>今の時代、机に向かって勉強するだけでも、ケガ等心配です。ましてや、レクリエーションをやるのに保健も必要と考えますが、それを毎回、保護者から集金できるのか? できたら予算の中で算出したいと頭を抱えているところです。</p>	<p>3-1-2 放課後等教育支援掛川モデル推進事業について</p> <p>①市の目指す姿と市民ニーズの間に乖離がないか。</p> <p>②子供にとってストレスを感じない場所とはどのような状態か、事業を考えるうえで必要な視点。</p> <p>3-1-3 白熱サイテック教室の開催について</p> <p>①他の重点施策への位置づけを持たせて次年度以降復活させる方策はないか。</p> <p>②単独事業では非効率なので、企業にとって広報的な効果が見込まれるよう、「茶エンナーレ」等比較的潤沢に予算確保の可能な事業に組み込むことも考えたい。</p>	<p>1 放課後等教育支援掛川モデル推進事業について</p> <p>(1) 市民ニーズにあった事業計画の検討が必要。</p> <p>(2) 子どもたちが安全に事業へ参加できる環境づくりの検討が必要。</p> <p>2 白熱サイテック教室の開催について</p> <p>(1) 2つの企業の協力が得られ、子どもに機会を与えられたことは評価できる。</p> <p>(2) 他の重点施策への位置づけを持たせ、他の事業に組み込むなど、次年度以降の継続について検討が必要。</p>
108	<p>H29と比較して実施学園は4から5に増えているが、事業費が約300万円の減となっている。実施学園数の変動幅で評価Cとなっているが、経費削減が成功しているのではなく事業内容の縮小なのであれば、単純に学園数の評価では測ることができずさらに低評価になると思う。</p>		
109	<p>学園だよりで見た大浜学園の延べ16日間の夏休み子ども教室の取り組みが大変素晴らしい。若つつじ学園・大淵小での学習支援15回という継続的な開催も評価すべき。達人による体験会的な集いもよいが、日常的な居場所作りのニーズも当事者には高いように思う。H30.12月に子ども政策課が実施した子育て当事者への子育て支援ニーズ調査の結果を各学園や一般市民にも共有・活用し、実際のニーズに沿った事業計画をお願いしたい。(我々戦略会議の委員が拝見することはできないでしょうか?)</p>		
110	<p>D評価ではあるが、2つの企業の協力が得られたことは評価できる。</p>		
111	<p>R1は他事業への予算捻出のために事業実施なしとなっているが、どこに捻出したのか? 子ども達に掛川の企業への誇りを感じさせ、長い目で見れば掛川市の重点施策2「掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする」にもつながる、将来を見据えた重要な事業だと思うので、継続されないことは残念。希望者を募る形で土日に実施するのではなく、学校行事として平日に開催する仕組みは作れないか。例えば協力企業がメニューを作成し、そこに希望する学校が手を挙げ市が採択するなど。</p>		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
112	<p>令和元年度は白熱サイテック教室の開催計画がなく、誠に残念に思う。 子どもたちに好評とのことであり、希望する子どもに機会を与えられることの意味は大きい。 1回あたりの受講者数から事業効率の悪さを言うのはたやすいし、とかくそう言われがちだとは承知しているが、行政が推進しなければ、途絶えてしまう。 大学などの協力は得られないか。所在地を市内に限定する必要はなく、地域連携に理解のある高度教育機関をあたってみてはいかがか。</p>		
113	<p>よりよい子育てのための施策は、いろいろあり、ありがたいですが、このプロジェクトの中に芸術文化、特に音楽が一つも取り入れられていないのは、非常に残念で、取り入れるべきと考えます。 園や支援センターで職員が保育の中でやる手遊びや歌はほんの少しです。 掛川市には、振興公社や音楽活動をしている市民がとて多く、頑張っているのに、もっと目を向けてもらいたいです。</p>	<p>3-2-1 子育て世代の居住環境支援について ・支援する対象を明らかにした上で、改めて制度設計が必要。 ・まちなかの賑わい創出の施策の一つとして、子育て世代への優遇策を打ち出せないか。</p> <p>3-2-2 地域における子育て支援事業について ・地域における子育て支援事業での市の役割は何か。 ・イベントに参加したくてもできない保護者への支援が大切。</p>	<p>1 子育て世代の居住環境支援について (1) 非常に良い施策だと評価できる。 (2) 認定数を増やすために認定基準の緩和が必要。 (3) 支援する対象を明らかにした上で、改めて制度設計が必要。 (4) まちなかの賑わい創出の施策の一つとして、子育て世代への優遇策の検討が必要。</p> <p>2 地域における子育て支援事業について (1) イベントに参加したくてもできない保護者への支援が必要。</p>
114	<p>地域ぐるみで子育てする環境づくりという目的と、子育て住宅の普及という事業内容が直結していない。目的がシンプルに少子化対策なら分かるのだが、この伝わりにくさも認定数が伸びない要因の一つではないか。事業自体の継続についても検討する必要があるのではないか。 継続をしていくならば、ハウスメーカー、工務店との協力関係を強める必要がある。</p>	<p>3-2-3 地域主催の体験イベントを通じた世代間交流について ・各委員が想定する家庭像に差異を感じる。 ・3-3-3のスマホ等を活用した子育て情報の発信と絡め、事業対象者への情報伝達手段の見直し ・事業の関係性を一度整理してはどうか。</p>	<p>3 地域主催の体験イベントを通じた世代間交流について (1) 社会参加、世代間協働で子育て支援に取り組む地区数23について高く評価する。 (2) 孤立する母親を生まない取り組みが必要。 (3) スマホ等を活用した子育て情報の発信と絡め、事業対象者への情報伝達手段の見直しが必要 (4) 事業の関係性を一度整理する必要がある。</p>
115	<p>掛川で家を持つ人のみが対象であり、賃貸住まいの一時的に掛川に暮らす多くの子育て世代は恩恵が受けられない。(認定を受けた集合住宅に住んでいる場合を除く)。 個人の経験としては、一時的な住まいの時期に行政サービスや各種支援の充実、地域からの温かい見守りを体験として感じられたかどうか、その後も掛川に暮らし続けたいと思うかどうかの大きな要因にもなるので、一時移住世帯も含めた居住環境支援が検討できないか。</p>		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記	
116	3-2-1	新幹線駅がある掛川では勤務先が市外の場合も多くあると思うが、そういった世帯は駅近の立地で便利に生活（保育園等の施設が街中にあることも含む）することを望むと思う。街中賑わい創出の観点からもWIN-WINであるので、中心部の空き家・空き部屋の整理を進め、市みずからも所有者に理解を働きかけてマッチングに動いてほしい。		
117	3-2-1	目標と実績の数値の乖離が大きい。住居の認定基準が厳しいということですが、基準をクリアした項目数に応じた補助金額を設定するか、住宅供給者に子育て世代用の住宅設計の工夫を呼びかけるなど事業の周知も必要なのではないでしょうか。「お茶の間宣言」を出している掛川市ですら、家族が集う居間やリビング(ダイニング)ルームに家族団らんに対するちょっとした工夫が見られるだけでも素晴らしいのではないのでしょうか。		
118	3-2-2	「具体的な施策」に「地域子育て支援員制度を検討・創設する」とあります。「地域子育て支援員の設置地域数」を重要評価指標にプラスし、全てのまちづくり協議会で子育て支援員の創設に取り組む施策を推し進めていただきたい。		
119	3-2-2	地域ぐるみによる子育て支援の実現に向けて、「地域子育て支援員」の設置（まちづくり協議会での組織化）は社会教育委員会でも提言させていただいています。「地域子育て支援員」が身近な存在となり、保護者が地域の中で安心して子育て支援を受けられるように、まちづくり協議会やセンター事業で取り組んでいただくと地域ぐるみの子育て支援が実現できます。		
120	3-2-2	現在重要評価指標が「世代間共同で子育て支援事業に取り組む地区数」となっています。しかし年数回の体験やイベントで終わってしまうところもあります。より日常的に支援を受けられ、イベントに参加しづらい保護者への支援もできる「地域子育て支援員」の設置、活躍にも重点を置いた取組が大切と感じます。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
121	3-2-2 まちづくりの中で「子育て支援員」の組織化が進めば「家庭教育支援員」や「子育てサポーター」(両方で市内に約50名)、「主任児童委員」、地域のボランティアも交えて活動が期待できます。		
122	3-2-3 社会参加、世代間協働で子育て支援に取り組む地区数23について高く評価したい。引き続き、取り組みのない地域にも働きかけを行い全地域でそのような場がある掛川市になるとよい。		
123	3-2-3 内部評価に「子育て支援センター連絡会での周知やかけこでの情報発信を進める」とあるが、各家庭が交流の場へ足を運ぶためには、家庭への周知が第一だと思う。支援センター連絡会に地域子育てサークルの関係者(前述の23地区に含まれる?)や、1歳児訪問を担当するコンシェルジュなども参加できる機会を設けることによって、子育てに関係するあらゆる情報を支援センター以外の子育て支援者も共有し、各家庭への情報伝達ルートを増やすことで孤立する母親を生まない取り組みにつなげていただけたらと思う。		
124	3-3 子育てコンシェルジュへの相談件数が増えないのは0歳児の保育園入園が増えたことによるということでしたが、保護者の相談先が保育園(こども園)に向いているということなら、先生方の負担が増えたということになります。子育てコンシェルジュの相談活動は保護者にとって安心と子育ての知識を得る大切な役割を担っています。園の負担軽減のためにも、園と連携し、各保育園での出張相談活動等も行っていただき相談件数を増やしていただきたい。 特に保・幼・小・中学校の子どもを持つ保護者の子育てや家庭教育力の向上については、園・学校だけに任せるのではなく、「子育てコンシェルジュ」と「家庭教育支援チーム」との所管を超えた連携した取組が施策の一つに含まれるのではないのでしょうか。 教育委員会とも連携を図り、プロジェクトに盛り込み具体的な施策を示していただきたい。	3-3-1 子育てコンシェルジュ事業について ・事業への期待は大きいだけに、コンシェルジュの増員と周知方法の検討が必須。 ・目標数値の適正化 3-3-2 三世帯同居等支援事業について ・他の住宅関係事業を含め事業の在り方の検討が必要 3-3-3 スマホ等を活用した子育て情報の発信について ・事業ごとに対象者等を相関図等で整理してはどうか。	1 子育てコンシェルジュ事業について (1) コンシェルジュの増員と周知方法の検討が必須。 (2) 目標数値の適正化が必要。 2 三世帯同居等支援事業について (1) 他の住宅関係事業を含め事業の在り方の検討が必要 (2) 市の目指すものが、市民にわかりやすく伝える必要がある。 3 スマホ等を活用した子育て情報の発信について (1) 事業ごとに対象者等を相関図等で整理が必要。 (2) 支援センターへ情報登録してもらい働きかけが必要。 (3) 市及び私立幼稚園からの積極的な情報公開が必要
125	3-3 子育て世代が安心して就労し・収入を伸ばすことが出生率の向上に寄与すると考えます。		
126	3-3 親が就労中に代わりとなって育児をする保育所や学童の拡充を引き続き推進されるほか、三世帯同居や祖父母への支援などの家族ぐるみの育児への施策にぜひ力を入れていただきたい		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
127	3-3 三世代同居事業の助成対象は、孫世代が小学生以下でかつ持ち家の世帯である(新築・増改築・購入)。賃貸の世帯に対しても三世代同居を推進する助成があっても良いのではないかと感じた。 (小学生以下の子育て持ち家世帯と賃貸世帯の割合はどちらが多いのかも興味があるところです。)		
128	3-3 三世代同居事業の助成金額(20万円)はどういった費用対効果を見込んでの金額なのか?どのくらいの効果が出ているとお感じか?		
129	3-3-1 0歳児保育園入所の増による相談件数の減とあるので、今後も減少が考えられる。目標値の再設定が必要ではないか。		
130	3-3-1 「2人目だし、保育園に入ったみたいだから相談はいらないね?」と言われた母親を知っている。その母親は相談を不要としていたので問題ないが、保育園に入ったから2人目だからといって相談や助けを求めているとは限らず、逆に園での生活について相談がある場合もあるはず。特に1歳児訪問は、ほかの相談機関と異なり家庭側から強く求めなくても来てくれることもあってセーフティネットの役割も担う。人材不足を理由に支援を制限することがないようにお願いしたい。		
131	3-3-2 「3-2-1子育て世代向け住宅」と比べて申請件数も多いが目的には届いていない。「今後の取り組みの方向性」にもあるように、3-2-1子育て住宅の事業と一本化し、掛川市が目指すもの、そのためにやっている事業、が市民にわかりやすく伝わるようにお願いしたい。		
132	3-3-3 市内全ての支援センターに情報登録してもらおう働きかけてほしい。現状、通いださないとわからないことが多いが、センターに通い始める前の段階の低月齢時の親はネットから情報を求めている。		
133	3-3-3 幼稚園のプレ入園の情報、入園説明会などについて、一部の幼稚園は情報が得られにくい(自園HPの情報を更新していない)ので、かけっこに掲載してもらいたい情報である。我々子育てし隊主催の保活おしゃべりサロンには転入世帯の参加が非常に多いが、保育園のことは市役所や広報かけがわ等で知ることができても私立幼稚園について情報が少ないという声を聞く。幼稚園の預かり保育の利用は全体の約20%あり3歳以降の待機児童受け皿になっている点からも、積極的な情報公開を市からも促してもらえたら。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
134	<p>評価指標「仕事と家庭の両立支援に取り組む企業への支援数」が0社であった。</p> <p>社会教育課所管の「家庭教育支援員」も企業訪問し子育てに悩む保護者の相談対応や家庭教育について企業内研修を行う等、今後活動を拡げていく計画です。是非、家庭教育支援チームとコラボして企業支援(働く保護者への支援)を行っていただきたい。</p>	<p>3-4プロジェクト全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲げている事業対象に対して、施策として展開しきれない現状 国、県事業との重複感がある。 構えの大きさと予算規模の矛盾がある。 <p>3-4-1仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 各企業における制度(仕組み)づくりの支援を念頭に置いての事業展開 市の役割(国や県事業の活用) 	<p>1 プロジェクト全体について</p> <ol style="list-style-type: none"> 職場復帰に不安を感じる方への講習会や勉強会などの支援の検討が必要。 家庭教育支援チームとコラボした企業支援の検討が必要 <p>2 仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 市として目指す姿を具体的に宣言し、市民に伝えることが重要。 各企業における仕事と家庭の両立の制度(仕組み)づくりの支援に市が関わる必要がある 国、県の事業の活用とは別に、市独自の事業が必要。 <p>3 子育てにやさしい事業所づくりについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 認定内容の見直しが必要。
135	<p>就業環境づくりについて、3-4の施策自体は、市民・事業者・行政が一体となって、働きながら子育てする全ての労働者を対象としている事がわかる。</p> <p>一方で、KPIの評価基準は企業から直接雇用者・もっと言うと正社員に向けての取り組みを評価しているような印象を感じる。</p> <p>掛川市の統計によれば、2013年から2016年にかけて、常用労働者の全体数は減少が続いているのに対し、パートの割合は増える傾向にある。</p> <p>また、常用労働者(期間の定めなく雇われている、もしくは1ヶ月以上の期間を定めて雇われている)に該当しない短期間雇用の非正規労働者も増える傾向にあるのではないかと推察する。</p> <p>こういった状況の中ではKPI指標は、「企業から直雇用者への取り組み」以外にも、子育て世代の労働者全体への結果がわかる指標も必要ではないか?</p> <p>平成28年度のデータでは、出産をする母親の年齢で一番多いのは30歳~34歳のレンジである(約4割)。</p> <p>ここから職場復帰をするとなると30代半ば~後半の年齢となりブランクを感じる方も多くなるのではないか?</p> <p>復帰に不安を感じる方々に対して講習会や勉強会などの支援などをご検討いただきたい。</p> <p>具体的な数字は失念したが、掛川市は30代の就労率がほかの世代より飛びぬけて低い「M字型」と聞いた事がある。(背景が不明で申し訳ございません)</p> <p>30代の非労働者すべてが子育てをしているわけではないし、重点施策に対する指標にはなりえないが、これら谷になっている世代の就労率の向上も指標以外のデータとして拝見してみたい。</p>	<p>3-4-1仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 各企業における制度(仕組み)づくりの支援を念頭に置いての事業展開 市の役割(国や県事業の活用) 	<p>3 子育てにやさしい事業所づくりについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 認定内容の見直しが必要。

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
136	3-4-1	<p>相談件数0件という実績は企業にとってはニーズがないためと考えられるので、相談という受け身の体制ではない事業に方向転換をしてはどうか。また、両立支援は今の時代女性よりも男性の働き方について重要視されていると思う。実際に子育てし隊のワークショップでも「家事育児に参加したいが仕事で毎日遅くなり子どもと触れ合えない」という子育てパパの嘆きも聞かれた。男性の働き方改革を意識して、子育てパパ自身を中心とした事業立てができないか。</p> <p>(例えばのアイデア…子育て世代の社員の本音を知り経営者に還元するようなワークショップ。育休取得した男性やその上司によるトークイベントを開いて他の会社の社員や経営者にも聞いてもらう。等)</p>		
137	3-4-1	<p>6月に自民党で男性育休義務化の議連が発足したが、「義務化」という強制力を持った言葉には意志を感じさせる。掛川市も子育て日本一を掲げるなら男性の働き方は避けては通れないはずなので、目指す姿を具体的に宣言していただいて、市民にも伝えてほしい。重要業績評価指数の「支援件数」は曖昧な印象を受ける。</p>		
138	3-4-3	<p>認定社数9件についてD評価ではあるが、各社の認定内容の質が高くなったことを評価したい。市HPで公開されている各事業所の認定内容を見たところ、以前と比較して先進的な取り組みを書いている企業が増えていた。1年半ぐらい前は「育休が1年取れる」などの日本全国当たり前の事だけを堂々と書いている企業も複数見受けられたが、2019年7月時点でそのような企業はほぼなかった。(以前見た時の証拠がなく、記憶に頼るのみで申し訳ありませんが…) 目標値に対して達成数が重要なのだとは思いますが、引き続き、質の担保を企業に求めていただけたらと思う。</p>		
139	3-5-1	<p>こども医療費(乳幼児)無償化のために460,453千円もお金が使われていることに疑問を感じる子育て中の人間もいることを知ってもらえたらうれしいです。</p>	<p>3-5プロジェクト全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な施策が混在しているため、重点プロジェクト全体として評価しにくい ・次期総合計画でくくり方の変更が可能か 	<p>1 プロジェクト全体について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 様々な施策が混在しているため、重点プロジェクト全体として評価しにくい (2) 次期総合計画で、くくり方の変更が必要
140	3-5-2	<p>ニーズ調査のアンケートを時期子育て支援計画策定だけでなく、広く市民に公開して活用してほしい。</p>		<p>2 子どもや家族が楽しめる場所づくりについて</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 遊具のない公園が多いため幼児向けの遊具の整備が必要。
141	3-5-4	<p>遊具が少ない公園が多く、22世紀の丘公園など特定の公園だけにぎわっている状態がもったいない。修繕に企業の寄付金や実労働での協賛、ネーミングライツ等も検討してはどうか。</p>		<p>3 出会い・結婚支援について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 民間と連携協力した取り組みが必要。

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
142	3-5-4 園庭のない保育園は近隣の公園をほぼ毎日利用することになるので、大きな保育園に通う園児と同様に遊びの中で体力向上できるよう、早急に幼児向けの遊具を整備してほしい。地区からの報告にはその地域にある保育園の意見も取り入れてほしい。		
143	3-5-4 遊具のない公園が多く、特定の公園に人が集まっているように思う。		
144	3-5-4 園庭のない保育園は近隣の公園をほぼ毎日利用することになるので、大きな保育園に通う園児と同様に遊びの中で体力向上できるよう、早急に幼児向けの遊具を整備してほしい。地区からの報告にはその地域にある保育園の意見も取り入れてほしい。		
145	3-5-5 少子化対策として人口の自然増を図る上で最も大切などころです。 市(公)が推し進めることも必要ですが、民間と連携協力した取り組みも考えたらどうでしょうか。 袋井市ではカフェレストランで、お見合いパーティーを開いている店があり毎回参加者は予約でいっぱいになるそうです。掛川でも例えば駅通りの居酒屋と市がコラボして毎月どこかの居酒屋で会費制のお見合いパーティーを開くことができるといいですね。出会いの場はたくさんある方がいいです。官民で協力し合っって楽しいパーティーを企画していただけたら街中の賑わいにもつながるのではないのでしょうか。		
146	4-1-1 本年外国人労働者の改正法が施行され、最近東南アジア系の市内在住外国人が急速に増えている。今までの大東大須賀地区に限らず、旧掛川地区でも増加している。しかしアパート住まいが多い、言語が伝わらないなど地域活動への参加は乏しい環境となっており、コミュニティが難しく、災害弱者にもなりかねない。また外国人旅行者としてオリンピックの観戦客も今後増加することも予測され、多言語、多文化の災害対応も再検討してゆく必要がある。死亡者ゼロを目指すため雇用する企業や国際交流機関と協働してゆくことが大切であり同じ掛川市民として安心して住める・楽しめる地域の創生を目指していただきたい。	4-1 国土強靱化 強くしなやかな明るい未来の国土づくり、に対する意見は3つの観点がある。 ・多言語・多文化の災害対応の再検討が必要ではないか。 ・高齢者の交通事故を鑑みて、道路維持管理について新たな視点による見直しが必要ではないか。 ・津波浸水区域は津波避難タワーのみではなく、ソフトの整備も必要ではないか。	(1) 災害時の多言語・多文化対応の検討が必要。 (2) 高齢者の交通事故の視点を踏まえた道路維持管理の見直しが必要。 (3) 津波浸水区域は津波避難タワーのみではなく、ソフトの整備も必要。 (4) 土砂災害に対する住民の避難行動の正しい理解と推進が必要。 (5) 協働による植樹祭や育樹祭が途絶えず実施されていることを心強く感じる。 (6) 次期総合計画に、道路利用者の安全・快適な通行を確保するための適切な道路維持管理の記載の検討が必要。

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
147	4-1-1 <p>昨年の台風24号による掛川市内の停電世帯は約7割となり広範囲なものであった。停電期間にばらつきがあり長くて1週間程度であったが、このことは一般市民が改めて自助・共助を再確認する機会となった。</p> <p>家庭の水や食料の不足、地域の助け合いの必要性などを体験という形で感じた住民も多かった。</p> <p>この機会を逃さないよう、またここから施策として発展させてゆくことで大規模災害への備えに繋げていただきたい。</p>		
148	4-1-1 <p>豪雨により今後とも懸念される土砂災害対応強化、住民の避難行動の正しい理解と推進。</p>		
149	4-1-1 <p>計画どおりに進んでいない取組があることを課題として記載されているが、KPI評価はAであり、目標は達成しているので、順調といえるのではないか。</p>		
150	4-1-1 <p>今後の取組の方向性として、「自主防災会」や「まちづくり協議会」との連携が挙げられているという点で、方向性は前年度に比べて明らかに示されているといえる。</p>		
151	4-1-1 <p>令和元年度の事業評価においては、各協力機関にどのような働きかけをし、何が実現したのかを記載いただきたい。</p>	市回答 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座等での周知により「家庭の避難計画作成」が5.9%の増。 ・ 地区まちづくり協議会と協働で各戸を訪問し、家具の固定など自助による防災対策の推進を図った。 	
152	4-1-2 <p>今後の取り組みの方向性の記述の中に、2019年度からスタートした森林環境譲与税の用途の一つとして、本事業を位置付けることを明示する必要があると思います。</p>	4-1 国土強靱化 強くしなやかな明るい未来の国土づくり、に対する意見は3つの観点がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多言語・多文化の災害対応の再検討が必要ではないか。 	
153	4-1-2 <p>掛川市の海岸防災林事業は、「掛川モデル」として広く知られている。</p> <p>市民による植樹祭や育樹祭（下草刈り）が途絶えず実施されていることを心強く感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の交通事故を鑑みて、道路維持管理について新たな視点による見直しが必要ではないか。 ・ 津波浸水区域は津波避難タワーのみではなく、ソフトの整備も必要ではないか。 	
154	4-1-2 <p>土砂が予定通り提供され、進捗が図られたとのことで、まずは順調なのではないか。</p> <p>工事延長が平成29年度に600mのところ、30年度は1,270mと格段に伸びた。計画を達成できた点を評価する。</p>		
155	4-1-2 <p>長期にわたる工事期間中、市民の皆さんの関心が減退しないように、手がけた協働事業の実績については、丁寧にフィードバックし、引き続き情報発信していくことが大切だと思う。</p>		

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
156	4-1-3	主に新たな道路網の構築について記載されており、財源確保に苦慮している様子が見て取れる。		
157	4-1-3	道路網の強化は、高規格道路やそれへのアクセス道路を整備することだが、一方で、安全で快適な道路環境を確保するために、歩道整備や事故多発地点での改善、或いは、既存の道路施設の長寿命化についての視点も欠かせない。		
158	4-1-3	現在の評価書では、後者の施策が評価されにくいので、次期総合計画の変更で、現状と課題、施策の方向に、「道路利用者の安全・快適な通行を確保するための、適切な道路維持管理」を加えてはどうか。		
159	4-1-3	「掛川西スマートインターチェンジの設置検討」が、平成30年度、令和元年度の少なくとも2か年に亘って行われるようだが、検討の期限はいつを想定しているのか。	市回答 2カ年の検討結果を基に、令和2年度内に一定の方向性（結論）を示す予定。	
160	4-2	内部評価の課題の記載が、平成29年度版からほとんど変わっていない。課題は認識しているが、解決の方策を見出せないという状態なのだろうか。	市回答 当該計画は、政治的判断を伴うハード事業が関わるため、まず、地元の意向を集約してきた。	(1) 太陽光発電を継続させるため自家発電に誘導していくことが重要で、蓄電池への助成を増やす検討が必要。 (2) 「木の駅事業」以外で、新たな事業者を支援していく事業展開の検討が必要。
161	4-2	一般財源で19,838千円を投入し、その9割が器具設置の補助金として使われているので、この補助制度の見直しが喫緊の対応だと思う。	4-2 スマートコミュニティの実現、に対する意見は1つの観点がある。 ・プロジェクトの事業費がすべて一般財源で、そのうち9割が器具設置の補助金のため、制度の見直しが必要ではないか。	
162	4-2-1	太陽光発電は、2019年以降、FIT（固定価格買取制度）の買取期間が順次終了することから、FITから自立した再生可能エネルギー電源を活用することが課題と思われる。		
163	4-2-1	太陽光発電を継続させるため、「自家発電」に誘導していくことが重要であり、そのための一方策として、蓄電池への助成を増やしていくことも考えられるのではないかと。なお、静岡県では、太陽光パネルの価格が下がっていること等から、太陽光発電施設設置の補助を平成29年度で終了している。		
164	4-2-2	木の駅事業と木質バイオマスガス化発電プロジェクトについて、調査をするとのことで、前年度よりは多少は具体化した印象を受けるが、実際のところは、この評価書からは読み取れない。	市回答 木の駅事業は発電機の目途がある程度立たないとこれ以上前に進めない状況。ガス発電事業最大の問題であったコスト削減に効果のある発電機の研究が進み実証に入る段階になっている。	

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
165	4-2-2	6月27日日経夕刊に、バイオマスや太陽光で地元の産業である畜産振興等に結び付けている、東北地方（山形県飯豊町、福島県南相馬市）の事例が紹介されていた。木の駅事業以外でも、新たな事業者を支援していく事業展開はできないだろうか。	4-2 スマートコミュニティの実現、に対する意見は1つの観点がある。 ・プロジェクトの事業費がすべて一般財源で、そのうち9割が器具設置の補助金のため、制度の見直しが必要ではないか。	
166	4-2-3	公会堂等への発電施設や蓄電池の設置はスマートハウスの段階である。事業のゴールを、実情に合わせて適切に設定すべきではないか。		
167	4-3	自立高齢者の割合が年々上がっているのは、成果である。	4-3 「ふくしあ」でつなぐ地域の健康づくり、に対する意見は2つの観点がある。 ・孤食を減らすための事業展開について ・予防検診のワンストップ化	(1) 自立高齢者の割合が年々上がっているのは評価できる。 (2) 小・中・高校生にふくしあが存在を知ってもらう活動を行うことが重要 (3) 孤食を減らす「ふれあい食堂」は、高齢者以外の方も地域で孤立しないための取り組みが必要。 (4) 予防検診は高齢者の手間を減らすためのワンストップ化が必要。
168	4-3	行政は「市民による自主活動の後方支援」との位置づけを明確にしている点は、好ましいと感じる。		
169	4-3-1	昨年度の評価書の今後の取組の方向性として、「ユニチャーム(株)協働によるソーシャルウォーキングを各地で開催」とあるが、どのような結果が得られたか。	市回答 地域の健康づくりの取り組みとして各地で開催してきましたが、ソーシャル・ウォーキングはユニチャーム(株)が開発した認知症予防プログラムであるため、今後はよりターゲット層を絞り、全市的な開催に取り組みます。	
170	4-3-1	複数の事業者で連携条件を比較検討してはどうか。	4-3 「ふくしあ」でつなぐ地域の健康づくり、に対する意見は2つの観点がある。 ・孤食を減らすための事業展開について ・予防検診のワンストップ化	
171	4-3-3	「ふれあい食堂」事業は、市民の顔が見える基礎自治体の特長を発揮しやすい事業であると思う。		
172	4-3-3	課題としている「施設の老朽化」と、今後の取組の方向性に記載のある「地域で自主的に実施する」ことはどう関連するのか。	市回答 孤食を減らす居場所としては、老人福祉センター事業や生きがいデイサービス、地域で実施するサロンがある。老人福祉センター事業は、施設の継続維持が施設老朽化により、今後、難しくなってくる。地域（生活圏域）で実施するサロンの充実を図ることで、地域で支え合う、暮らしやすい共生社会をめざす。市としては、ふくしあ内の生活支援コーディネーターが、地域作りを共に考える。	

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
173	4-3-3	地域に運営を任せることの積極的な理由は何か。	市回答 地域の実情に合わせた運営で、自助共助、地域で支え合う共生社会をめざす。そのため、市としては、ふくしあ内の生活支援コーディネーターが、地域作りを共に考える。	
174	4-3-3	地区やまちづくり協議会、センター事業において、ふれあいサロンや三世代交流等が定期的に開催されている。食事の提供がある活動ばかりではないが、顔が見える身近な地域における高齢者への支えあい活動の一助となっている。	4-3「ふくしあ」でつなぐ地域の健康づくり、に対する意見は2つの観点がある。 ・孤食を減らすための事業展開について ・予防検診のワンストップ化	
175	4-3-3	孤食を減らす「ふれあい食堂」においては、すべて高齢者を対象とした取組となっていることが残念。孤食は高齢者だけではない現状がある。 例えば、子どもの孤食は、食育だけでなく、成長や心の病気と影響は大きい。全国的に急速に広がっている「子ども食堂」活動は、貧困家庭を意識しながら、地域の子どたちに食事の提供をする事業であるとともに、住民をつなぐ地域交流拠点としても成果を上げている。そのため、現在は対象を子どもとしない取組も増え、居場所としても大きな役割を担っている。生活のしづらさを抱えた方が、地域で孤立しないように、本市においても必要な取組であると感じている。		
176	4-3-4	昨年度の今後の取組の方向性には「介護予防事業に力を入れ、対象者の減少を図る」となっていたが、紙おむつを必要とする人を急激に減少させるのは困難だろう。		
177	4-3-4	現実的な対策が必要だが、課題認識は、昨年度同様「国の補助事業対象外となることが予想されるので、事業の再検討が必要」との記載である。どうするのか。		
178	4-3-5	予防に検診は欠かせないが、高齢者にとっては手間でもある。是非、検診のワンストップ化を実現していただきたい。総合検診の日を毎年増加させるとの方針が記載されているので、今後に期待したい。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
179	4-3-5	地域では、従来の障害、高齢、母子、貧困といったいわゆる「タテ割り福祉」では対応できない複合的課題が増えている。ワンストップ相談窓口である「ふくしあ」においては、専門職と連携して解決するだけでなく、自治会、ボランティアなど地域にある機関、団体との連携による地域拠点としてのさらなる役割が求められている。また、「ふくしあ」にて健康相談や健康講座を実施することで、「ふくしあ」がとても身近な存在になっているため、継続して実施していただき、敷居の低い「行きやすい・入りやすい場」として住民から認知されるように望んでいる。	
180	4-4	重要業績評価指標の中に①地区まちづくり協議会や市民活動団体等が行うビジネス性を持った事業数があります。市民団体の育成方針としてビジネス性を持った事業に取り組むことを、積極的かつ具体的に指導するという目標を、施策の中に記述する方が良いと思います。	4-4地域の絆で課題解決 掛川流協働によるまちづくりの深化、に対する意見は2つの観点がある。 ・地区まちづくり協議会の活性化について ・生涯学習運動について ・市民活動団体等の活性化について ・自主防災会の組織化の推進について
181	4-4	「生涯学習運動」「報徳精神」により本市のまちづくりが進められてきたことが、世代交代により、薄らいでいるように感じている。本市のまちづくりの礎であるため、地域活動や市民活動等にて、住民自らが触れる機会、学ぶ機会を意識して創っていくことが大切であり、先輩市民への敬意とさらなるまちづくりの深化につながると考えられる。掛川流人材育成事業においても、取り入れていただけるように検討をお願いしたい。	1 地区まちづくり協議会の活性化 (1) 市議会が参加する市民協働会議の開催の検討が必要。 (2) 組織そのものの質を高めるための施策が必要。 (3) 市民団体の育成方針としてビジネス性を持った事業に取り組むための指導する目標設定が必要。 (4) 地域主体によるまちづくり活動の目的・手段・効果を整理すべき。 (5) まちづくり協議会の発展のためには組織の進め方の視点、方向性が必要である。 2 生涯学習運動について (1) 「生涯学習運動」「報徳の精神」は本市のまちづくりの礎であり、生涯学習運動が退化しないための取り組みが必要。
182	4-4-1	フリーマーケットやウォーキングマップ販売は、何を指して行う事業なのか。「まちづくり」という何でも包含してしまう単語を用いずに説明するとどうなるか。	市回答 地区住民の交流の場を作りだし、住民同士の絆づくりを目的とし地区の魅力を発信することで地区の活性化・流入人口の増加につながると共に、財政確保による持続可能な活動を目指している。
183	4-4-1	フリーマーケットやウォーキングマップ販売の目的を、「住民が集い、地域への愛着を増すこと」とすれば、その結果、住民意識はどのように変わったのか。	市回答 住民の地域愛が増す事により、地域への貢献心が芽生え、協働によるまちづくりへの参加意識が高まっている。
184	4-4-1	第1回会議で、「森のせっけん事業」は採算が取れず、市場性も望めないとの説明があった。改めて何うことになるが、せっけん作りは、どんな課題を解決するための事業なのか。	市回答 森林・里山の資源を有効活用し、ビジネスモデルを作ることで、地域の雇用促進と移住・定住を促進する。

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
185	4-4-1 地区主体によるまちづくり活動に市費を使うのであれば、目的・手段・効果を整理すべきである。 例えば、高齢者の生活上の具体的な不都合を解決するための活動に特化して補助金を交付するようにより、予算執行上、明らかな方向付けをした方が良いのではないかと。	4-4 地域の絆で課題解決 掛川流協働によるまちづくりの深化、に対する意見は2つの観点がある。 ・地区まちづくり協議会の活性化について ・生涯学習運動について ・市民活動団体等の活性化について ・自主防災会の組織化の推進について	
186	4-4-2 市民団体どうしの交流や情報交換の場が掛川市ではまだまだ少ないと思われる。中間支援が本来目的を達成できているかどうか不透明な部分もある。 本重点施策を市民団体もどのように事業計画の中で取り込んで行政と協働できるかということも、あまり話し合いの機会もないため、存在すら知らない、また関わり方もよくわからない団体もあるので周知をお願いしたい。		
187	4-4-2 市民団体が資金的な確保は条件として挙げられるが目的によっては社会問題解決、例えば引きこもりやシングルマザー貧困など、自力での資金調達に適さない緊急性の要するもの、長期支援の必要性などもあるので公的補助も考慮いただきたいと思う。		
188	4-4-2 市内でも声をあげられない困った状態を改善しようと活動している団体があるが人手不足・資金不足でその存続が危ぶまれている。団体のニーズを調査し、より良い方向性を見出すコーディネーターが中間支援に求められる。 行政の下請ではなく、対等な立場で行政と協働できる団体の育成をお願いしたい。		
189	4-4-2 団体どうしの連携も同じ目的達成のために大事だが、行政・企業・学校などの異分野との交流の場も検討いただきたい。		
190	4-4-2 市民団体どうしのマイナス点は、時に苦情や紛争などもある。中間支援としての立場は中立であり事実確認をした上での示唆としていただき、市民団体活動の活性化にモチベーション管理もお願いしたい。		
191	4-4-2 中間支援に力を入れる方針を掲げている点は評価する。		

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
192 4-4-2	課題の「市民活動団体と企業CSRを繋ぐために企業側のニーズを把握する」との記載は、昨年の評価書と同じである。1年間で、具体的に何をを行ったのか。	市回答 ①「協働によるまちづくり活動発表会」にて企業CSRの取り組み発表の場を設けた。 ②個別に相談があった件について地区まちづくり協議会とマッチングを行った。 【マッチング事例】 杏林堂薬局、掛川東病院とまちづくり協議会（南郷地区）が協働で生活改善講座を開催。	
193 4-4-3	(1)(2)の実績とR1計画欄の記載が、全く同じでなので、「地区防災計画の検証、見直し」「自主防災会の組織化、研修・ワークショップ等の開催」の進捗度がわからない。	市回答 「地区防災計画」作成済み12地区 作成中8地区 「研修・出前講座等」113回	
194 4-4-3	重要業績評価指標の平成30年度の家計避難計画策定率は45.4%?	市回答 市民意識調査によるもので、「家庭の避難計画作成率」H30の確定値は、45.3%、H29は、39.4%です。	
195 4-4-3	災害からの被害を軽減するためには、個・各家庭・自主防災組織など、地域ぐるみの災害対策が重要となっている。「地区防災計画」「家庭の避難計画」の作成の周知を図るだけでなく、防災意識を高めるため、より具体的な活動が有効的ではないかと思う。 例えば、タウンウォッチング。実施されている地域もあると思うが、災害が発生したことをイメージしながら実際にまちを見て歩き、自分たちの住む地域の状況や危険箇所を知ることができる活動。タウンウォッチングで知り得た情報を「家庭の避難計画」に活かしていく。防災意識を高めることに直結するだけでなく、より地域への関心や理解を深めることにも効果があると考えられる。各家庭も地域も変化している。住民の参加のもと、定期的に地域を確認する作業は地道ではあるが大事な活動になるかと感じている。 「家庭の避難計画」作成は、前年比6%増であるため、関心が高まっていることを踏まえた取組がより効果をあげるのではと期待している。	4-4地域の絆で課題解決 掛川流協働によるまちづくりの深化、に対する意見は2つの観点がある。 ・地区まちづくり協議会の活性化について ・生涯学習運動について ・市民活動団体等の活性化について ・自主防災会の組織化の推進について	
196 4-4-4	誰もが幸せを感じながら住み続けるまちづくりには、そこに住む人の潜在的な力や地域固有の資源を引き出し、活かしていくことがとても大切だと感じている。 是非、若い方達に参加しやすい内容にさせていただき、社会の一員として、まちづくりを考え、企画・実践できることを学び、自分の「できること」や「やりたいこと」がまちの元気につながっていくことを実感してほしい。新たな担い手の発掘と人材育成を応援したい。		

	プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
197	4-4-4	かけがわ未来づくり会議講座の受講者は、得た知識を、「掛川流協働」でどのように活用するのか。	市回答 地域課題の解決に向けた即戦力として、自ら解決策を考え、地区まちづくり協議会の担い手として、地域に入って活動を実践する。	
198	4-5	推進を阻害する要因となっている市民の意見や懸念として、どのようなものがあるのか。	市回答 本年度、公共施設マネジメント地区説明会及びアンケートを実施し意見集約をいたします。	1 公共施設マネジメントの推進 (1) 公共施設マネジメントが着実に進展している点は評価できる。 (2) 公共施設の再配置は市民全体が主体的に考えるべき問題であり、掛川市らしい市民合意形成の仕組みを作ることが大切。
199	4-5	将来負担額実績でAA評価が出ており、進捗は順調であると判断した。	4-5 選択と集中 行事事改革の推進、に対する意見は1つの観点がある。	
200	4-5	達成状況と要因(2)に、「市民を大きく巻き込む事業となるため、慎重に進めている」との記載がある。理解と合意形成に力を傾注する進め方に好感を持つ。	・公共施設マネジメントの推進について	
201	4-5-1	中長期的な課題として持続可能な都市経営の観点から非常に重要なテーマであり、着実に進展させている点で評価できます。今後の課題として市民の合意形成が記載されていますが、公共施設の再配置の問題は市民全員が主体的に考えるべき問題であり、まさに市の基本理念である「情報共有」「参画」「協働」の取組を浸透させる良い機会と前向きに捉えて、掛川市らしい市民合意形成の仕組みをつくることが大切になると考えます。		
202	4-5-1	昨年度の評価書で平成30年度計画とされていた再配置計画が策定された。進捗が明らかである点を評価する。		
203	4-5-1	課題として、市民や施設利用者の合意形成の方法が挙げられているが、とりあえず地区説明会やアンケートの実施を検討しているとのことで、賢明なやり方だと思う。		
204	4-5-1	各施設の老朽化度、利用状況、コスト状況を既に把握しているのので、データを活用した説明により、関係者に公平感が感じられる合意形成ができることに期待したい。		
205	4-5-2	平成30年度計画で既に「共同委託化検討のため4市ワーキング部会の開催」が記載されていたが、令和元年度も同様である。1年遅れたのは、どのような状況があったのか。	市回答 令和4年度の「事務の共同委託化」開始を目標に平成30年度、令和元年度の2ヶ年でワーキング部会を継続し協議を推進しています。	

プロジェクト番号	第1回会議以降に提出された委員意見	ワーキンググループ会議での整理	外部評価(案) ※プロジェクトごとにまとめて表記
206	平成30年度計画の「公共下水道事業全体計画の見直し」が着実に行われた様子であり、評価される。	4-5 選択と集中 行革改革の推進、に対する意見は1つの観点がある。	
207	令和2年度に企業会計に移行することなので、事務スケジュールにそって、着実に推進されることを期待する。	・公共施設マネジメントの推進について	
208	<p>私ども労働者福祉協議会のスローガンの中には、以下のキーワードがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心、共生 ・共助の輪 ・多様な階層とつながり理解者を増やす ・持続可能な社会のセーフティネットづくり <p>それぞれの地域創生の施策が可能な限り偏ることなく隅々まで浸透するよう、また、施策に取り残される人が出ないようにしていくことがとても大切だと思うところです。</p>	意見なし	<p>PDCAサイクルは、長めのスパンでの活動であり、進捗が見えてくるに従い計画の見直しが必要である。計画の見直しが遅れて、機会損失をすることがないように、早い意思決定をしていくことが必要。</p> <p>また、施策に取り残される人が出ないようにすることが大切である。</p> <p>(参考：短期スパンの考え方OODA(ウーダ)ループ)</p>
210	<p>委員はPDCAのCAに携わるようですが、DOは機会を逸することなく進めて欲しいと思います。</p> <p>決裁手続きが滞って遅れが出て計画の見直しをするなどは最大の機会喪失です。</p> <p>PDCAは比較的長めのスパンでの活動です。最初の目標設定はいいのですが、進捗が見えてくるに従って計画の見直しが必要になります。長期になればなるほど(1次とか2次とか)早い意思決定をする必要があると思います。ご参考にOODA(ウーダ)ループという短期スパンの考え方を送りました。</p>		

